



看護学部は草薙・小鹿の2つのキャンパスで学んでいます。

短期大学部

短期大学部は小鹿キャンパス(静岡市駿河区小鹿)にあります。3年制の歯科衛生学科、2年制の社会福祉学科(社会福祉専攻、介護福祉専攻)、こども学科を擁する保健・医療・福祉・教育系の専門職者の養成教育の機関です。短期大学部では、伝統である「実践力養成に力を入れた教育」、「卒業まで見守る行き届いた教育」、「資格取得をサポートする教育」に加え「豊かな人間性をはぐくむ教育」に力を入れ、時代の要請と地域社会の要望に応える人材の育成を目指しています。

小鹿キャンパス



短期大学部サイト



航空機をご利用の場合

2025年7月現在

※空港と静岡駅を結ぶバスが運行されています。(約50分)  
 ※富士山静岡空港までのおよその所要時間を記載しています。



主要都市から静岡駅までのアクセス



東海道新幹線  
 ※各駅より新幹線「ひかり」号利用  
 ※JR東海時刻表から抜粋。  
 乗り換え時間などは含みません。

最寄り駅等からのアクセス

- 草薙キャンパス**
- 電車 静岡鉄道「県立美術館前駅」または「草薙駅」下車、徒歩15分
  - バス 静鉄バス JR「草薙駅」(県大・美術館口)バス停から
- 小鹿キャンパス**
- 電車 静鉄バス JR「静岡駅」(北口8番乗り場)から「美和大谷線(静岡大学または東大谷方面)」で「小鹿局前」下車、徒歩3分
  - バス JR「静岡駅」(南口21番乗り場)から「みなみ線(外回り)」で「小鹿局前」下車、徒歩3分

発行



〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1

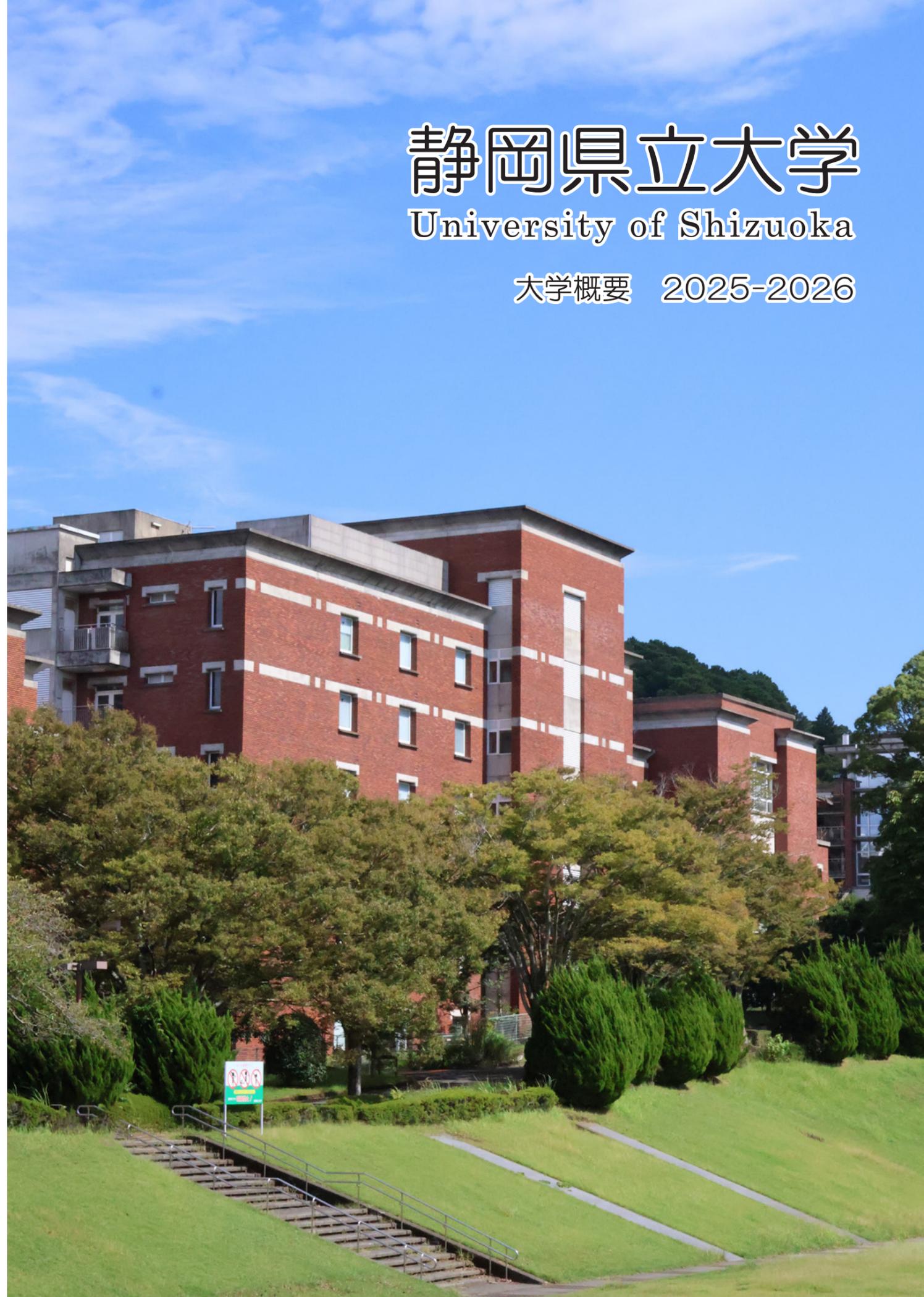
TEL 054-264-5102 FAX 054-264-5099

WEB <https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

# 静岡県立大学

## University of Shizuoka

大学概要 2025-2026



理念

- 静岡県立大学は、たゆみなく発展する大学を目指します
- 静岡県立大学は、卓越した教育と高い学術性を備えた研究を推進します
- 静岡県立大学は、学生生活の質(QOL)を重視した勉学環境を整備します
- 静岡県立大学は、大学の存在価値を向上させる経営体制を確立します
- 静岡県立大学は、地域社会と協働する広く県民に開かれた大学を目指します



静岡県立大学は、これらの理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において、次の目標を掲げます。

目標

**教育** 学生を第一に考え、学生生活の質(QOL)の向上を図り、高度かつ秀逸できめ細やかな教育を提供することで、社会に貢献できる有為な人材を育成します

**地域貢献** 県民の負託に応え、県政や産業界との連携を図りながら、卓越した教育と高い学術性を備えた研究による成果を地域に還元します

**研究** 静岡県の最高学府としての自覚を持ち、独創性豊かで高い学術性を備え、国際的な評価に耐え得る研究を推進します

**国際交流** 諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、また世界に情報発信することにより、静岡県の国際交流の強力な推進力となります

静岡県立大学は、この目標を達成するため、学術的・人的資源を最大限に活用した大学運営とその体制の確立を目指します。

大学がやるべきことは何でしょうか。高校などの中等教育までは、教えられることができるようになることが学習目標だったでしょう。日本の大学進学率は58%となっており、ユニバーサル化した大学では、学生自らが問題点を整理し、問題への答えあるいは解決に至るための方法を考え出し、それをを用いて調査や研究を実行し、自分なりの意見を表明できるようにすることだと考えています。加えて、創造・蓄積した「知」を多様な人々と、対話によって共有することも重要な社会貢献です。

計画した通りの目標達成を超えて、より柔軟な思考ができるような人材を育て、「来て良かった」と感じてもらえる大学を目指したいと思います。学生の皆さんが大学の学びを未来に向かって生かそうとする高い志を持って、大学生活を謳歌していただくことを願っています。



静岡県公立大学法人理事長兼  
静岡県立大学・同短期大学部学長

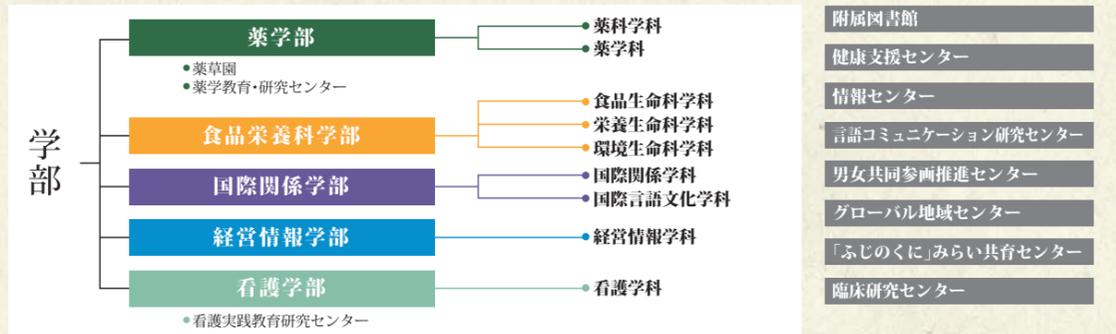
今井 康之  
IMAI Yasuyuki

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

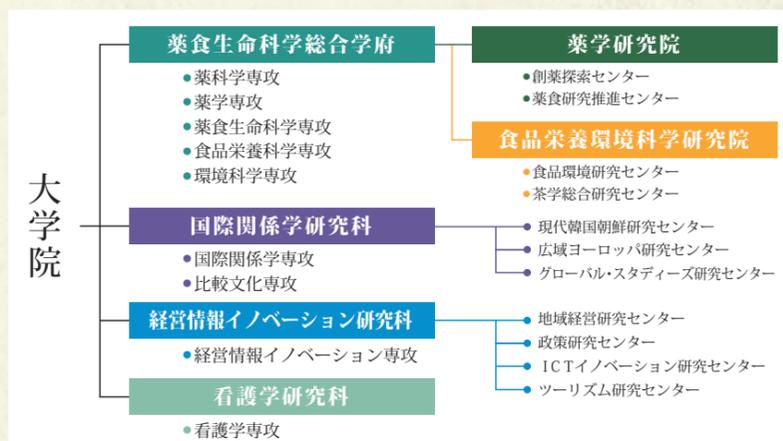


組織概要

静岡県立大学

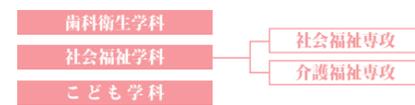


- 附属図書館
- 健康支援センター
- 情報センター
- 言語コミュニケーション研究センター
- 男女共同参画推進センター
- グローバル地域センター
- 「ふじのくに」みらい共有センター
- 臨床研究センター



- 事務局
  - 経営戦略部
  - 総務部
  - 教育研究推進部
  - 学生部

静岡県立大学  
短期大学部



- 附属図書館
- 事務局

## 地域社会とともに 国際社会で活躍できる人材の育成

学部教育では、基礎力と社会の変化に対応できる応用力を養成するため、全学共通科目を開講しています。さらに、各学部で専門科目、実験・実習等を通して、専門分野の知識と技能、思考力を醸成します。幅広い教養と、専門科目の基礎と応用を充実させて、社会に貢献し、国内外で広く活躍できる人材を育成しています。



### 薬学部

#### 「くすり」のエキスパート:指導的薬剤師、 生命科学研究者、高度専門職技術者を育成

薬学は生命と健康に関わる学問であり、有機化学、物理化学、生物化学、生薬学、衛生薬学、薬剤学、医療薬学などを体系的に学べる唯一の学問分野です。薬科学科(4年制)では、研究者、高度専門職技術者となれる人材を育成し、卒業生のほぼ全員が大学院に進学し研究マインドが醸成されます。薬学科(6年制)では、高度な専門知識と倫理観を有する人材を育成します。5年次には病院・薬局における実務実習を行い、卒業生には薬剤師国家試験の受験資格が付与されます。研究・教育ともに、トップクラスの教員をそろえ、充実したカリキュラムのもとで教育を行っています。



### 食品栄養科学部

#### 「食と環境と健康」の プロフェッショナルを育成

食品の安全性や生活習慣病の蔓延、複雑で多様化する環境問題など、食と健康に関する課題について関心が高まっています。本学部では、生命科学の体系的な教育を基礎として、科学英語や情報教育の充実により国際的に通用するコミュニケーション能力を有し、食と環境と健康に関する課題について地球規模で取り組むことができる研究者、高度専門技術者および管理栄養士を育成しています。食品生命科学科では、食品の開発や分析技術などについて、栄養生命科学科では、食を通しての健康の増進と保健・医療への貢献などについて、また、環境生命科学科では、食をめぐる環境分野の知識と技術について総合的に学び研究することができます。



### 国際関係学部

#### 国境や文化の壁を越えて 地球や地域の課題に取り組める人材の育成

現在、国際関係はますます複雑化し、さまざまな課題を生み出しています。そのような状況下でそれぞれの地域の言語や文化等を理解し、それらを尊重しながら、地球規模の視点で具体的な課題に取り組むことが求められています。本学部では、幅広い視点から国家間の関係をとらえ、さまざまな専門分野からのアプローチを通じて、多面的な思考力と深い洞察力、幅広い教養を身につけ、複雑に揺れ動く国際社会を理解する能力を育成します。そして、国境や文化の壁を越えて人と人を結び、地球やそれぞれの地域が抱える課題に協力して取り組むことのできる人材の育成を目指します。



### 経営情報学部

#### 現代社会でイノベーションを担う 問題解決型の人材を育成

我が国は、経済・社会のグローバル化や少子高齢化などの国内外からの厳しい環境変化に直面しており、社会の各分野でイノベーションを起こすことが求められています。本学部は、「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」の4分野の融合と専門性により、イノベーションを担う問題解決型の人材を育成します。初年次において基本的知識を得た後、4分野のうちから1つまたは複数の分野を専門分野として磨くことで、専門性を持ちながらも関連分野に精通した人材となることが出来ます。本学部から輩出される人材は、高い就職率に見られるように社会から高く評価されており、今後のさらなる活躍が期待されています。



### 看護学部

#### 複雑で多様な健康ニーズに対応できる 人材の育成

看護は、人を対象とし、尊厳のある人の生活を守る尊い仕事です。日本社会は超高齢少子化を迎えており、複雑で多様な健康ニーズに対応する能力を看護職に求めています。本学部では、看護師・保健師を養成しており、幅広い教養、豊かな人間性と倫理観を持ち、医療チームの一員として、人々の健康問題に対応できる人材、そして、常に社会の動向に目を向け、看護学へのためめ探究心を持って看護学の発展に寄与できる人材の育成を目指しています。



## 専門的知識・能力を持つ高度専門職業人や 研究・開発能力が優れた研究者を育成

大学院では、専門分野の教育・研究を通して、探究力と創造力を身に付けるとともに、高度な知識や技術を有する学内外の教員や専門家との対話を通して、研究者や技術者に必要な能力を醸成します。

### 薬食生命科学総合学府

「薬食同源」「食薬融合」を共通認識として、「薬学」と「食品栄養科学・環境科学」の両面から「健康長寿科学」の学問分野を牽引し、グローバルに活躍できる研究者、高度専門職業人を育成します。本学府においては、薬学研究院と食品栄養環境科学研究院に所属する教員が教育を担当します。また、健康科学の発展と健康長寿社会の実現に資する研究活動を一層推進するため、2013年度には薬学研究院に薬食研究推進センターを、2014年度には食品栄養環境科学研究院に食品環境研究センターおよび茶学総合研究センターを開設しました。

### 薬学研究院

#### 先端的薬学研究的推進による 健康長寿社会の実現

本研究院では、自然科学および生命科学を基礎として、医薬品の創製および適正使用に関する研究を通して、健康長寿社会の実現に貢献することを目指しています。また、本学発の新薬シーズ開発を目指した研究を推進している「創業探索センター」に加え、2013年に開設された「薬食研究推進センター」では、薬食総合研究を推進するとともに、医薬品や機能性食品の開発に繋げる橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)にも積極的に取り組んでいます。



### 食品栄養環境科学 研究院

#### 「健康寿命」延伸に向けた「知の開拓」

本研究院では、生活を通しての基本的な健康維持問題および環境保全の一次健康分野を基盤とし、「食品・栄養・環境」のそれぞれの分野を教育・研究することにより、人々の健康問題や環境問題に関して適切な社会的適応をなし得る専門的技術者・研究者を育成することを目指しています。さらに、健康産業の基盤作りに貢献し、人々の「健康寿命」延伸に向けた「知の開拓」を行なっています。2014年度から食品環境研究センターおよび茶学総合研究センターを開設し、一層の社会貢献に取り組んでいます。



### 国際関係学研究所

#### 国境を越えた広い視野と専門力を鍛え、 国際社会や地域社会の課題を探究する

地球規模の結びつきがますます強まる今日の世界では、ある地域で起こった問題や自然災害が世界中の人々の生活に影響を及ぼします。そのような変化を念頭に、本研究科では諸問題を解決するための複眼的な知性と専門性の獲得を目指します。国際関係学と比較文化の2つの専攻と6つの研究分野を設けて、約60名の教員が社会科学から人文学までの広い専門分野をカバーし、学際的かつきめ細かい指導を行います。



### 経営情報 イノベーション研究科

#### 経営、公共政策、情報、観光を柱に イノベーションの担い手、高度な専門的 人材を育成

現在、新たに台頭しつつある社会変革へのニーズに応えるべく、静岡という地域の状況を熟知した地域の総合的な戦略を構築し、イノベーションを現実化する人材を養成する拠点が求められています。本研究科はそうした拠点として、静岡県の地域特性およびその立地の状況を生かして、地域の皆さんとともに地域に立脚し、知の創造とその活用により地域社会に貢献できる人材を育成します。



### 看護学研究科

#### 看護学の未来を切り拓く人材の育成

現代社会は、ますます複雑で多様化する健康問題や健康ニーズを持つ人々に対応できる質の高い看護職者を求めています。本研究科では、こういった社会の要請に応え、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与できるよう、生命関連の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究および実践活動を担う人材を養成しています。



## 大学附置センター

### 健康支援センター

学生・教職員の「こころ」と「からだ」の健康をサポートします。悩みごとや健康の相談、健康診断、ケガや病気の応急処置と医療機関の案内、健康講座の開催、障害学生への必要な支援の提供をコーディネートしています。

### 言語コミュニケーション研究センター

言語教育の専門教員が習熟度別の英語授業の体系的な充実を促進し、言語教育の課題解決に取り組み、グローバル時代に対応できる英語能力の向上に役立つ教育と研究を行います。

### グローバル地域センター

地域の課題をグローバルに考え、地域および世界に対し提言を行う調査研究拠点です。アジア・太平洋の政治・経済・社会や、危機管理、自然災害に関する調査研究および研究成果の発信を行います。

### 臨床研究センター

本学の臨床研究に関する実施体制を整え、企業等との共同研究を呼び込み、外部資金の獲得を目指すことを設置目的としています。臨床研究に関する企画・計画・発信、臨床研究教育の企画・計画・啓発を行います。

### 情報センター

教育・研究の活性化のため、ネットワーク環境や学内システムの構築・整備・運用を行っています。また、安全な利用環境を確保するために情報セキュリティ対策を講じています。

### 男女共同参画推進センター

すべての学生・教職員に対して、男女共同参画、ジェンダー平等の視点に立って教育・研究の充実、雇用や環境の整備などを行うとともに、地域社会における活動と連携し、男女共同参画社会の実現に取り組みます。

### 「ふじのくに」みらい共育センター

「地(知)の拠点」(COC=Center of Community)として、地域課題解決を目指した異分野融合型の教育研究を目標とし、県内自治体等と連携・協働し、健康づくり、地域みらいづくりを促進しています。

## 学部・大学院附属機関



### 薬学教育・研究センター

当センターでは静岡県立総合病院における長期実務実習の指導および同院診療科・薬剤部との臨床共同研究の推進という重要な役割を担っています。実務実習では、臨床での実務経験が豊富な指導教員が、薬剤部の指導薬剤師と連携して実習指導にあたっています。

### 薬草園

薬学部の教育に必要な植物の栽培・収穫および研究、さらに県民・社会人に対する生涯教育の場の提供を目的に1989年に設置されました。薬用植物や有用植物を広く県民に知ってもらうために、平日一般開放しています。



### 創薬探索センター

創薬探索のための研究環境を整備し、大学や公的機関、製薬企業との共同研究により、がんなどの有効な治療法の開発が求められている疾患を対象とした新しい医薬シーズの探索研究を進めています。また、実践的かつ高度な研究を通して、将来の新薬開発を担う研究者を養成しています。

### 薬食研究推進センター

医薬品および機能性食品(医薬品等)に関する研究の推進と成果の事業化のため、医薬品等に関する学術的基礎研究の推進および臨床研究への支援とともに、医薬品等に関する情報提供並びに専門職および研究者の養成のための支援を行っています。



### 食品環境研究センター

食品環境研究センターでは、食品・栄養・環境科学の各分野の研究を通して、地域における健康福祉の向上と産業の活性化に資することを目的とし、「食と健康」、「環境と健康」に関連した研究および地域への教育・啓発活動等を行っています。

### 茶学総合研究センター

茶学総合研究センターは、公的機関や民間企業、茶関係者など、産学民官と強く連携し、茶の栽培加工から機能性、マーケティング、経営手法に至るまで茶を総合的に科学し、その研究成果を発信するとともに茶学教育による人材育成も含め幅広く茶業振興に寄与することを目指しています。



### 現代韓国朝鮮研究センター

広い視野からの朝鮮半島研究をモットーとして2003年に設置されました。本学アジア研究の蓄積を基礎に、研究(ワークショップ、社会調査、海外提携機関との共同研究等)、社会・地域貢献(政策提言、県民公開シンポジウム等)、教育(特別講義、日韓合同ゼミ等)の三本柱で活動しています。

### 広域ヨーロッパ研究センター

西欧・南欧から中東欧、バルカン、ロシア、中央ユーラシアまでを含む広域ヨーロッパを、地域的に広い文脈と歴史的に長い視野で捉える研究の拠点となることを目指し、個々の地域の政治や経済や文化、EUの拡大と統合などについて学際的な研究を進めています。

### グローバル・スタディーズ研究センター

グローバルな構造や変動への視点と知識、個々の具体的な課題へのコミットメントの両面から、調査と研究を行い、グローバル化に関わる諸課題の解明と解決に寄与しようとする学際的な組織です。教育活動を通じて、地球市民的視野から変動する社会に能動的に参加する人材の養成を目指します。



### 地域経営研究センター

大学院経営情報イノベーション研究科の知的資源を組織化・体系化し、地域経営をめぐる新たな理論やアプローチを探索するとともに、地域の諸問題の解決のための提言を行います。また、研究成果を生かして、社会人学習プログラムの開発と提供を行います。

### 政策研究センター

「公共政策」、「経営」、「データサイエンス」又は「観光」の各分野における政策に関する知見や、他の研究センターにおける研究と融合させつつ、政策に関する研究を行い、その成果を本大学院の内外に発信し、静岡県の発展に寄与することを目指しています。

### ICTイノベーション研究センター

経営・情報・総合政策分野を連携・融合させた学際的な研究を推進するため、情報通信技術(ICT:Information and Communication Technology)分野におけるイノベティブな研究および社会のイノベーションの基盤となる研究に取り組み、研究成果の社会展開を通じて静岡県をはじめとした地域の発展に貢献します。

### ツーリズム研究センター

静岡県観光を中心とした調査・研究をはじめ、静岡県民、企業、団体等を対象とした講演会、社会人講座を行っているほか、高等学校等における観光教育のサポート等を通じ、将来の静岡県観光を担う人材の育成にも取り組んでいます。



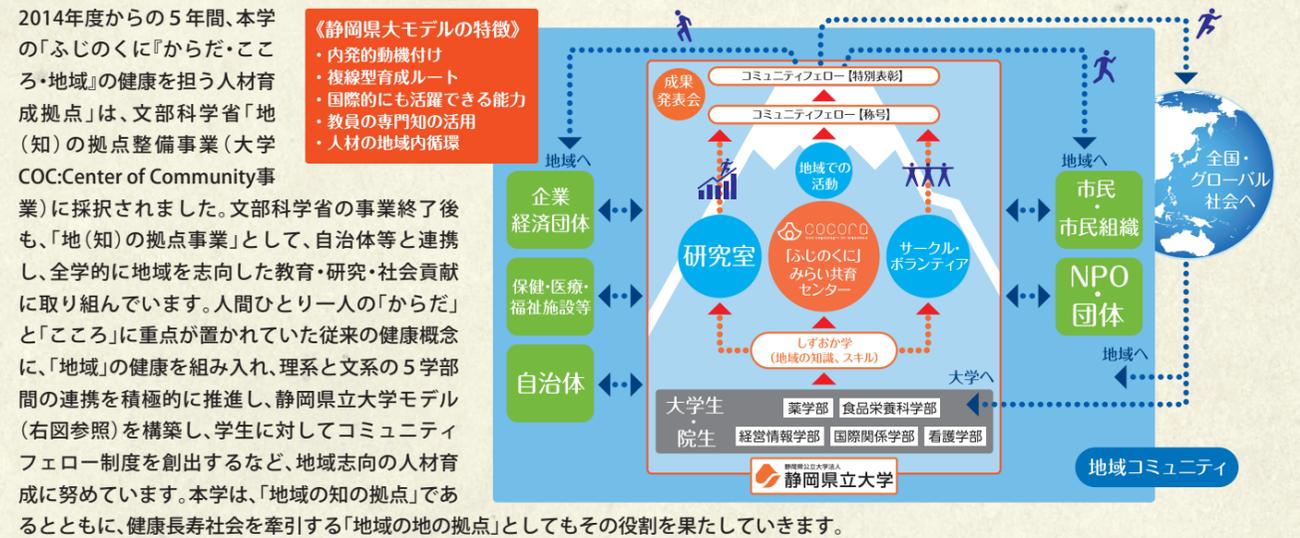
### 看護実践教育研究センター

医療機関・福祉機関・保健機関と地域との協働・連携ができる看護の実践家を育て、教育・研究・開発を促すことを目的として設立されました。2021年4月より看護師特定行為研修の研修指定機関として教育を開始し、現在は臨床看護師のリカレント教育プログラムも提供しています。

# 社会と時代に応える人材づくり

本学は、開学以来、「開かれた大学」を建学の理念のひとつとして掲げています。高まる社会的要請に応えるため、大学と社会との双方向的な関わりの中で、地域貢献を目指して多くの事業に積極的に取り組んでいます。

## ■地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル(図式)【通称:静岡県大モデル】



2014年度からの5年間、本学の「ふじのくに『からだ・こころ・地域』の健康を担う人材育成拠点」は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC:Center of Community事業)」に採択されました。文部科学省の事業終了後も、「地(知)の拠点事業」として、自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。人間ひとり一人の「からだ」と「こころ」に重点が置かれていた従来の健康概念に、「地域」の健康を組み入れ、理系と文系の5学部間の連携を積極的に推進し、静岡県立大学モデル(右図参照)を構築し、学生に対してコミュニティフェロー制度を創出するなど、地域志向の人材育成に努めています。本学は、「地域の知の拠点」であるとともに、健康長寿社会を牽引する「地域の地の拠点」としてもその役割を果たしていきます。

## ■事業の目的

本学のプログラムは、「健康寿命の延伸」および「人口流出対策と雇用創出」が緊急課題である連携地域において、持続可能な健康長寿社会づくりの担い手を育成する事業です。この事業の特色は、健康長寿科学拠点として全国有数の実績を誇る本学の「強み」を教育に生かし、超高齢社会における地域課題を解決するためのモデルを構築することにあります。

教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「しずおか学」の開講                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡という地域の特性と魅力を学び、視野を広める全学共通科目(2単位以上選択必修)</li> <li>・「静岡の健康長寿を支える取り組みと人々」「静岡の防災と医療」「茶学入門」など</li> </ul> </li> <li>○コミュニティ・ワーク力を持った人材の育成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティフェローの称号付与、特別表彰の授与(学生支援)</li> </ul> </li> </ul>
研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域課題にマッチした地域志向研究の重点化                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康づくり」、「地域づくり」、「アプリづくり」の3つのワーキンググループを中心とした研究</li> <li>・学部横断の学生による研究 など</li> </ul> </li> </ul>
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康長寿社会を支える拠点形成と人材育成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡市地域福祉共生センター「みなくる」(共生事業受託)</li> <li>・「健康長寿フェロー」、「地域みらいづくりフェロー」の称号付与(社会人対象)</li> </ul> </li> </ul>

## 「しずおか学」科目群の一例

### 地域と連携しながら「静岡」の特性と魅力を学び、地域の発展に貢献する授業

「しずおか学」科目群では、静岡に特化した地域の文化や産業などを学び、地域を愛し、地域に貢献するマインドを醸成します。講義(座学)やフィールドワークで構成され、外部から関係者や専門家を招くなど、実践的な経験を積めるようプログラムされています。

※2015年度入学者から、しずおか学は選択必修科目として卒業時まで2単位以上を修得することになっています

## 茶学入門

お茶どころ静岡県の学生として、茶の歴史や文化、生理機能、生産栽培・加工技術、マーケティングに至るまで、茶に関する広範な知識を学びます。茶業関係者や日本茶インストラクターなど、毎回各テーマに関する一流の専門家を招いて授業が行われます。



## 静岡の防災と医療

南海トラフ地震が想定され、その対策が急がれている静岡県内の防災と医療を推進する組織と、それらを支える専門職の役割と取り組みを紹介し、医療体制、食糧支援、心のケア、ボランティア組織などを包括的に学びながら、自らの防災を考え、さらに地域の防災と医療に何が貢献ができるかを考える科目です。



# 地域・産学連携

本学は、企業や試験研究機関等と共同研究・受託研究を行い、自治体、他大学等とも連携して、質の高い教育・研究の成果を地域に還元しています。また、これらの研究成果の発表と、本学教員・共同研究機関と産業界との交流の場を設け、新たな連携のきっかけを創り、さらなる地域連携を推進しています。

## 本学の産学官連携体制

多様な地域関係主体からの地域課題解決に向けた要請への対応窓口として、産学官連携事業を推進する「産学官連携推進本部」と、COC事業を推進する「『ふじのくに』みらい共育センター」の2機関からなる「ふじのくに」発イノベーション推進機構を設置し、文理融合研究の推進とともに、産学官連携事業と地域貢献事業を総合的に進めています。



## 産学連携による主な成果品 産学官が協力して多くの実績を残しています。

### 01 アメーラトマト(マーケティング研究)

最高品質の高糖度かつ、リコピン、ビタミン類、ギャバなどの機能性成分が多く含まれたトマト「アメーラ」。「アメーラ」のマーケティング研究を行い、販路拡大、ブランド力強化に貢献。



### 02 コリバクチン検査

大腸がん患者の7割が感染している「コリバクチン産生菌」を簡便に検出する方法を開発。受診者の負担が少なく、がんになりやすい腸内環境を持つハイリスクの人を見つけ出すことが可能。



### 03 ムスリムおもてなしガイドブック

日本などの非イスラーム圏で、地域の特色を生かしたハラール食品開発のためのサプライチェーンを例示し、ムスリム観光誘致の地域モデルを提唱。



### 04 静岡在来自然薯むかご羊羹

とろろの原料となる自然薯の副産物「むかご」を使用した和菓子を開発。「むかご」に含まれるジオスゲニンを食品成分として摂取した場合、大腸がん予防作用等を示すことが動物実験で確認されている。



### 05 イズシカめんち

獣臭を抑え、シカ肉初心者でも気軽に食べることができるメンチカツ。県東部で増えすぎたニホンジカの食害問題に着目し、管理捕獲したシカ肉を食資源として活用するための研究から生まれた。



### 06 柑橘果皮由来ノビレチン試薬の合成化

天然物からの抽出が困難であるノビレチンを合成品として量産することに成功。既存品のおよそ1/20という低価格化を実現することによって、これまで不可能であった多くの実験動物での試験も可能となった。



## 機能性表示届出支援

(食品環境研究センター 若林敬二 特任教授)

システマティック・レビューは、届出する製品の機能性関与成分に、目的とする健康維持効果があるかを総合的に評価する方法です。本学ではシステマティック・レビューを実施し、機能性表示の届出を支援しています。

### たっぷりカテキン緑茶(茶葉)

緑茶に含まれる茶カテキンには肥満気味の方の内臓脂肪を低下させる機能があることが報告されている。(株式会社荒畑園)



### クラウンメロン・アローマメロン

メロンについて、ストレス緩和作用のある機能性成分「GABA」に関する届出が受理されたのは、全国で初めてとなった。(静岡県温室農業組合)



共同研究や受託研究など、まずはお気軽にご相談ください。◀地域・産学連携推進室 TEL:054-264-5124▶

## ムセイオン静岡 大学の枠を超えて地域と連携するプロジェクト

### 学術、芸術、歴史、文化、教育「文化の丘」に咲く7つの大輪

「ムセイオン」とは、古代エジプトのアレクサンドリアに興った世界初の学問・教育・文化・芸術の総合施設で「ミュージアム」の語源と言われています。本学では、草薙地域およびその周辺にある7つの教育文化機関が連携し『ムセイオン静岡』として活動しています。地域とつながるさまざまな学びの場を提供し、若者や専門家が自由に行き交う文化の発信地を目指しています。



### ムセイオン静岡で学ぶ

参画機関と連携して文化・芸術・歴史を学ぶ各種講座を開催しています。



### 【連携機関】

- ① 静岡県立大学
- ② グランシップ (静岡県コンベンションアーツセンター)
- ③ SPAC静岡県舞台芸術センター 静岡芸術劇場 静岡県舞台芸術公園
- ④ 静岡県埋蔵文化財センター
- ⑤ 静岡県立美術館
- ⑥ 静岡県立中央図書館
- ⑦ ふじのくに地球環境史ミュージアム

## TOPIC

### SDGs推進の取り組み

2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標(SDGs)について、本学の取り組みを推進していくため、2019年11月に『静岡県立大学 SDGs宣言』を行いました。2020年4月には、SDGsイニシアティブ推進委員会を設置して、全学的な取り組みを進めています。

### 静岡県立大学SDGs宣言

本学では、SDGsが誓う「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、人材の育成を通じ、また、知の探求を通じて、地域をつくり、地域をむすび、そして、未来へつないていくことを使命として、全力をもって取り組んでいくことを宣言しました。



### 【取り組みの一例】

#### 高校との連携事業

県内の高校が行うSDGsに関する教育活動に協力するため、学生や教員を高校に派遣し、学習方法や研究方法についてアドバイスすることで、高校生の学習をサポートしています。



#### SDGs関連講演会の開催

SDGsイニシアティブ推進委員会が主催して、外部講師を招き、SDGsに関する最新のトピックについての講演会を開催しています。SDGsに関する環境の変化をタイムリーに捉えるよう努めています。



#### 「SDGs概論」開講

各学部の教員がSDGsに関する事例や研究内容をオムニバス形式で講義する「SDGs概論」を全学共通科目で開講し、SDGsに係る教育機会の増加を図っています。

各学部・附属機関・学生団体におけるSDGs推進の取組を、本学ウェブサイトで紹介しています。 <https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/sdgs/>



静岡県立大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

# 社会人に開かれた大学

本学は、開学以来、「開かれた大学」を建学の理念のひとつとして掲げています。

教育・研究の成果を地域社会に還元するため、社会人の方々や地域の皆様を対象とした社会人聴講制度や、公開講座を企画・開催するとともに、大学院経営情報イノベーション研究科(博士前期課程・博士後期課程)および看護学研究科(博士前期課程・博士後期課程)の昼夜・土曜日開講制の導入や、公開セミナーの開催など、社会人の皆様が学びやすい環境を整備しています。

## 大学院の昼夜・土日開講制

社会人が学びやすい環境を整備するため、大学院経営情報イノベーション研究科(博士前期課程・博士後期課程)および看護学研究科(博士前期課程・博士後期課程)においては昼夜・土曜日開講制を導入しています。経営情報イノベーション研究科は月曜～金曜日の午後・夜間4～7時限(14:40～21:40)及び土曜日の午前・午後1～4時限(9:20～16:40)及びオンラインでも開講しています。社会人の方も働きながら2年間で修士号、3年間で博士号が取得できるカリキュラムを編成しています。

## 社会人聴講生

地域の皆様に、本学の正規の授業(公開科目)に聴講生として受け入れ、学生と一緒に学習していただける制度です。

## 公開講座

県民に生涯学習の機会を提供し、地域の文化の向上に寄与することを目的として公開講座を開催しており、本学の教育・研究の成果を地域・社会へ還元しています。

## 長期履修制度

大学院では、長期履修制度を導入しています。諸事情により、標準修業年限を超えて、教育課程を履修し、課程を修了する計画が認められれば、制度を利用することができます。

## 研究生・科目等履修生

特定の専門事項の研究を希望する方を研究生として、正規の授業科目を履修し単位修得を希望する方を科目等履修生として受け入れる制度を導入しています。入学資格等の詳細については、各学部・研究科の方針により異なります。

## 看護師特定行為研修

看護実践教育センターが行う看護師特定行為研修は、地域で療養する人々やその家族のニーズに応え、安全に特定行為を実践できる専門性の高い知識と技術を備えた、地域医療に貢献できる看護師の育成を目的に指定研修機関として厚生労働省に承認され、2021年4月より研修を開始しました。

## 社会人学習講座

地域社会に向けた講座を開催し、諸分野で活躍するビジネスパーソン・経営者・公務員・教育関係者等のスキル・アップ、キャリア開発、リカレント教育を行います。講座のテーマは、ビジネス、公共政策、IT技術、観光、語学など多岐にわたります。社会人学習講座を通して、経営情報イノベーション研究科が蓄積してきた教育・研究に関する知見を地域社会にフィードバックしています。他部局や地方公共団体などと連携し、地域社会のニーズに応える講座の企画、提供も行っています。



# 国際交流・留学

本学では、グローバルに活躍する人材の育成を目指して、世界各国の大学や研究機関と協定を結び、共同研究や学術交流、短期交換留学生の派遣・受け入れを積極的に行っています。



2025年5月1日時点

## ・大学間交流

世界16ヶ国32大学と交流協定を締結し、共同研究や教員・学生交流、交換留学生の相互受け入れなどを行っています。

## ・部局間交流

14ヶ国の24の大学や研究機関と部局間交流協定を締結し、共同研究や教員・学生交流などを行っています。

## ・語学研修

春や夏の長期休暇を利用し、海外の提携校等で英語をはじめとした外国語や異文化を学ぶプログラムです。

## 本学初の国際学生寮でグローバル体験!

### 寮の概要

キャンパス内のグローバル化促進の一環として、2022年4月にオープンした本学初の国際学生寮「富学寮」は、大学所有施設をリモデルしたもので、草薙キャンパスから徒歩約10分に位置しています。

日本人学生と留学生の計12人まで入寮可能です。寮内には、寮生全員が利用できる大きな対面式キッチン、広いラウンジ、シャワー室、ランドリーがあり、各個室には、エアコン、ベッド、机等も備え付けられています。さらに、敷地内には野菜・果物や季節の花を育て慈しむコミュニティガーデンがあります。収穫した野菜などを使い、各国の料理を作りあったり、互いの言語や文化を共有しあったりと、さまざまな「コミュニケーション」を創出し、学生寮としての機能と国際交流の場としての機能を併せ持つ、グローバルな人材を育む環境と言えます。

### 住環境の4つの特徴

- ① 快適なパーソナル空間
- ② 国際交流・語学力向上
- ③ 安全・安心
- ④ 地域と共に暮らす

How to apply? 募集要項等の詳細は、学内支援システム・ユニバ、及び本学ウェブサイト「国際学生寮」ページでお知らせします。

国際学生寮  
 ▶ <https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/exchange/campus/dormitory/>

国際学生寮  
 寮生が週1回更新!

# 学生数

(令和7年5月1日現在) (単位:人)

学部	学 部	学 科	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
薬学部※	薬学部	薬科学科	45	41	51	39	—	—	176
		薬学科	87	96	81	88	83	75	510
		計	132	137	132	127	83	75	686
食品栄養学部	食品栄養学部	食品生命科学科	29	29	33	30	—	—	121
		栄養生命科学科	27	29	28	28	—	—	112
		環境生命科学科	24	27	26	22	—	—	99
		計	80	85	87	80	0	0	332
国際関係学部	国際関係学部	国際関係学科	69	73	88	86	—	—	316
		国際言語文化学科	128	135	139	155	—	—	557
		計	197	208	227	241	0	0	873
経営情報学部	経営情報学部	経営情報学科	130	136	135	154	0	0	555
看護学部	看護学部	看護学科	120	137	110	125	0	0	492
合 計			659	703	691	727	83	75	2,938

## 大学院生

課程	専 攻	1年	2年	3年	4年	計	
薬食生命科学総合学府	博士前期	薬科学専攻	44	36	—	—	80
		食品栄養科学専攻	35	34	—	—	69
		環境科学専攻	9	7	—	—	16
		小計	88	77	0	0	165
	博士後期	薬学専攻	6	2	6	7	21
		薬科学専攻	7	5	9	—	21
		薬食生命科学専攻 (薬食生命 薬系)	6	6	2	—	14
		(薬食生命 食系)	4	4	2	—	10
		食品栄養科学専攻	1	4	5	—	10
		環境科学専攻	2	3	3	—	8
小計	22	20	25	7	74		
計	110	97	25	7	239		
国際関係学研究科	修 士	国際関係学専攻	3	6	—	—	9
		比較文化専攻	5	2	—	—	7
		計	8	8	0	0	16
経営情報イノベーション研究科	博士前期	経営情報イノベーション専攻	9	9	—	—	18
		博士後期	経営情報イノベーション専攻	2	3	9	—
	計	11	12	9	0	32	
看護学研究科	博士前期	看護学専攻	7	14	—	—	21
		博士後期	看護学専攻	1	4	4	—
	計	8	18	4	0	30	
合 計		137	135	38	7	317	

## 外国人留学生

国 名	中国	ベトナム	ミャンマー	インドネシア	韓国	マレーシア	ネパール	インド	ブラジル	カンボジア	アルジェリア	リビア	計
学部生	13	4	6	1	5	0	1	0	0	0	0	0	30
大学院生	16	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	0	23
研究生	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
計	31	5	7	1	5	1	1	1	1	1	1	1	56

## 大学間交流協定等に基づく受入留学生

国 名	中国	韓国	ドイツ	フィリピン	ロシア	トルコ	計
人数	2	0	0	3	2	1	8

※2024年度に海外協定校から受入れを行った留学生数

## 大学間交流協定に基づく本学からの派遣留学生

国 名	韓国	ドイツ	フィリピン	フランス	スペイン	トルコ	アメリカ	計
人数	3	0	4	2	3	1	0	13

※2024年度に海外協定校へ派遣を行った留学生数

## 令和7年3月卒業・修了生の就職状況

就職内定率 **99.0%** (大学院含む)

(令和7年3月31日現在)

各学部・研究科とも高い就職率を誇り、  
本学の学部卒業・大学院修了生は大学で学んだ専門性を生かし、幅広い分野で活躍しています。

単位:人

	薬学部	食品栄養学部	国際関係学部	経営情報学部	看護学部	学部計	大学院	合計
卒業生数	119	83	188	120	118	628	128	756
就職希望者	74	45	169	112	113	513	112	625
就職決定者	74	45	167	110	112	508	111	619
就職内定率(%)	100.0	100.0	98.8	98.2	99.1	99.0	99.1	99.0
大学院進学	44	35	4	7	5	95	12	107
その他 (留学、専門学校、家事等)	1	3	15	1	0	20	4	24

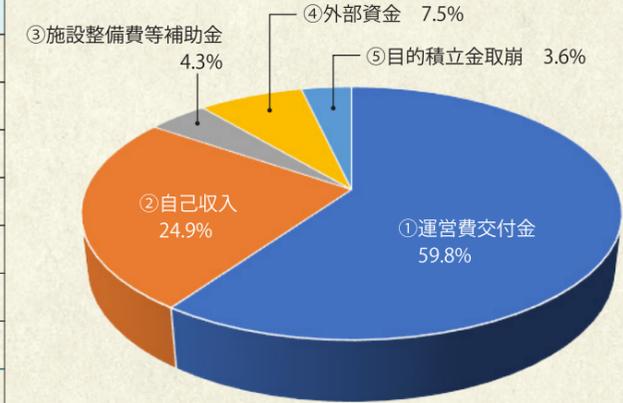
# 静岡県公立大学法人の歳入予算及び歳出予算

令和7年度における歳入予算と歳出予算の構成は以下のとおりです。

予算規模は、約85億92万円と前年度に比べ約6億3,122万円(108.0%)の増額となっています。

## 令和7年度 歳入予算(見込) (単位:千円)

区 分	令和7年度	
	予算額	構成比
①運営費交付金	5,079,466	59.8%
②自己収入	2,117,528	24.9%
学生等納付金	2,051,127	24.1%
その他	66,401	0.8%
③施設整備費等補助金	362,237	4.3%
④外部資金	637,253	7.5%
⑤目的積立金取崩	304,445	3.6%
計	8,500,929	100.0%



## 令和7年度 歳出予算(見込) (単位:千円)

区 分	令和7年度	
	予算額	構成比
①教育経費	951,493	11.2%
②研究経費	409,698	4.8%
③教育研究支援経費	367,114	4.3%
④一般管理費	959,281	11.3%
⑤人件費	4,813,853	56.6%
⑥施設整備費	362,237	4.3%
⑦外部資金事業経費	637,253	7.5%
計	8,500,929	100.0%

